

令和2年度 2学期終業式 式辞

新型コロナの感染は全国で拡大していますが、医療従事者や物流などのエッセンシャルワーカーの人たちは年末年始もないと聞いています。心から感謝とエールを送りたいと思います。さて、8月24日から始まり、夏・秋・冬の3つの季節を頑張り抜いた長い2学期が終わります。そして、2020年ももう少しで終わります。新しい2021年は、皆さんにとって、日本全体にとって、明るい年になることを祈っています。

さて、2学期の始業式で、私から「挨拶のプロになれ」という話をしました。要は「直接お世話になっていない人にも挨拶する力をつけなさい」ということですが、特に3年生は、その成果が発揮される時が来ました。入試や就職試験などできっと生きてでしょう。

ところで、12月師走は、欧米ではクリスマス。日本では、昔からよく大掃除などして、「年神様」をお迎えし、「門松」「しめ縄」「鏡餅」などの正月飾りを準備します。その「年神様」の「年」とは、稲の実りのことだそうで、古代日本では農耕が発達するにつれて、年の始めに豊作を祈願し、それが日本固有の「年神様」を祀【まつ】る正月行事となったと言われていました。また、「門松」は、「年神様」が迷わずに家に入るための目印だそうです。更に「しめ縄」や「しめ飾り」は、その場所が神聖で「年神様」の場所であることを示し、魔よけとされるそうです。家の中に飾る「鏡餅」は、「年神様」の泊まる家だそうで居間などに飾ります。このように、私たちの年末年始の様々な催しには、日本の歴史や文化が凝縮しています。

日本の歴史や文化というと、私が親しくしている方に、「コスモス」「地球星歌」を作曲した「ミマス」さんという方がいます。いつでも二中に来てくれると言う事ですが、今年の2月に島田市を題材にした曲をお願いしました。出来上がった曲に添えられていたメッセージを紹介したいと思います。

「…『私たちはなぜ歴史を学ぶのか、なぜ歴史を学ばなければならないのか』…大井川流域の文化や歴史、旧東海道にしても、蓬莱橋にしても、諏訪原城にしても、史跡や文化を、伝えよう残そうと努力している人たちへ、僕はいつも大変敬意を払っています。『そういう方たちのお陰で、僕たち自分たちは、今を生きていられるのだ』という、すごく本質的で大切なことに気付いたからです。この曲は、島田市の美しい風景や、素晴らしい史跡の数々を訪れ、その印象をもとに作りました。地域の豊かな自然や歴史に触れ、そこから何かを感じて学びとることは、将来のよりよい人、よりよい社会をつくるための大きな糧となるはずです。」

また、市内の全ての学校へもメッセージを添えてくれました。

「コロナの影響で、楽しみにしていた学校行事や、これまでがんばってきたことの成果を発揮する機会がなくなり、残念な思いをしている人もいるかも知れません。しかし、どんな時でも、友人、家族、学校などの多くの人たちが、皆さんを応援しています。1日1日を大切に、どんな時でも明るく・元気に、チャレンジをし続けてください。」

以上がミマスさんからのメッセージですが、

2021年、令和3年が、きっと今年よりよい年になることを、私(校長)も祈っています。

島田第二中学校長 池谷英人